

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400314
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム昴星
所在地	愛媛県西予市城川町下相693番地
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 1 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋風の3階建ての建物で各フロアからの眺めは雄大です。各フロアの利用者様は、他のフロアと交流しながら生活されています。</li> <li>・静かな緑あふれる環境の中それぞれが役割を持って生活されており、利用者を支える職員は、一人ひとりが目標を持ち介護力を高めるため研修に参加しております。</li> <li>・畑には、季節に応じた野菜を作っており、新鮮な野菜を使用して調理することが出来、おいしい食事を提供することができます。</li> <li>・開設以来、施設内で大きな感染症にかかった人もおらず、健康で暮らせています。</li> <li>・母体が医療機関であり、定期的な往診、看護師の訪問により、医療との連携ができています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かな高台に造成された場所に事業所はあり、日当たりがよく眺望にも優れている。交代して間もない管理者は、職員と利用者の双方向のコミュニケーションを図りながら、利用者の日々の暮らしを支援している。職員から管理者には話がしやすく、協力姿勢が見られ良好な関係を伺うことができる。医療法人を母体とする事業所は、利用者の健康管理や緊急時の対応など、24時間体制での医療連携が取れており、看取りの取組みも積極的に行われている。職員は利用者の一人ひとりができることを大切に、少しでも長く残存機能が維持できるよう支援している。利用者や家族が安心できるサービスの提供ができるよう、職員の研修にも力を入れている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

事業所名	グループホーム昴星
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏名	山本 修司
評価完了日	H25 年 11 月 25 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 共有理念はあり、それを踏まえて目に付きやすいところに個人目標を掲げ協力できる体制をつくっている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を基にして職員全員で話し合い、事業所独自の理念を作成している。事業所内の見えるところに理念を掲げ、職員全員で共有し日々の実践につながるよう意識づけを行っている。また、年度末に理念の取組み状況の振り返りを行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 当施設での納涼祭に来て頂いたり、地方祭で地元の牛鬼等に施設に訪問して頂いたり、地域のボランティアの方に来て頂いて交流させてもらう等している。</p> <p>(外部評価) 事業所の納涼祭には、地域住民にチラシを配布し参加を呼びかけている。地域の祭りや中学校等の行事に参加して、地域住民と関わりを持つように努めている。また、中学生の福祉体験学習の受け入れをして交流をしている。現在、地元の自治会に入会していないため地域との関わりが少ないが、模索しながら地域とのつながりを持つ姿勢が伺える。</p>	地域とのつながりを持つよう努力しているが、日常的な交流までには至っていない。管理者が交代したことをきっかけとして、積極的に近隣住民に挨拶に出向くなど、今後も継続して地域との関係づくりに努め、事業所自体が地域の一員となるような取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方たちへ十分に活かせてなく努力中だが、地域からの協力は得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議で話し合ったものを、業務カンファレンスで報告し、 話し合いサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、区長、民生委員、市担当 者等の参加を得て開催している。会議では事業所の状況を 報告し、介護教室や避難訓練など幅広く議題を挙げ、参加 者と意見交換をしている。様々な立場の参加者に事業所の 様子を知ってもらい、意見等をもらいながらサービスの向 上に努めている。	会議では意見交換は活発に行われているが、参加者の 固定化がみられる。体験学習の受け入れをしている学 校の先生に参加を呼びかけるなど、多方面とのつなが りを持つことで地域との交流が開ける機会にもなり、 多くの参加者を得て、充実した会議となることを期待 したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議などで意見交換をし協力関係を築けている。	
			(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加し、事業所の報告を行うほ か、利用者の相談等を行うなど、連携を深めている。運営 面でも報告や相談が気軽にできる良好な関係を築いてい る。また、市が開催する研修等にも積極的に参加してい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全体で拘束をしなくてもいい環境づくりに気を付けた ケアが出来ている。	
			(外部評価) 利用者の安全面を考え、家族の同意を得て身体拘束を行っ たことがある。職員全員が身体拘束を理解し、利用者と同 れ合うことにより気がゆるまないよう意識し、ケアに取り 組んでいる。管理者は気になることがある場合は、職員を その都度注意している。また、言葉の拘束にもならないよ う職員全員で意識しながら、適切な対応をするよう心がけ ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 危険の早期発見、職員間・入居者間のストレスの軽減、家族などの面会時も気にする様にしており、日々の声かけも気にしてケアをしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し報告して勉強したり、該当ケースがある場合は再度職員間での話し合いをする様になっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に家族・身元引受人の方に十分に説明をし、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に話をする様にして、要望を聞くようにしている。また、契約書の中に外部の連絡先を明記している。  (外部評価) 家族の面会時や家族会の開催時に、職員から利用者の状況を伝え、話しやすい関係づくりに努めながら意見や要望を聞くようにしている。遠方の家族には「昴星新聞」を送付し、手紙や電話での情報交換を行っている。利用者や家族から出された意見や要望は、職員全員で話し合い運営に反映できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ケアカンファレンス・業務カンファレンスで話し合うなどして、管理者会議等で提案するようにしている。  (外部評価) 管理者は交代して間もないため、職員とコミュニケーションを図りながら信頼関係づくりに努めている。管理者の人柄がよく、職員も接しやすく意見等が言いやすい雰囲気である。ケアカンファレンスや業務カンファレンスで職員の意見や提案を出し、一人ひとりの運営に対する意識向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資手当を付け、資格取得といった向上心を持てるように取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加してもらったり、研修内容を記録で他の職員が見れる様にしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) サービス担当者会議への参加、合同研修会等で交流する機会などがある。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の希望や不安などを聞いて本人を第一に考えるプラン作成するなどし関係作りをする様に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族から希望・不安などを聞き、家族さんの不安が無くなる様なプラン作りをし関係を築いていく様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査等で得た情報・プラン作成前のアセスメントと職員間の話し合いなどでプラン作成をして本人・家族さんに説明をし納得をしてもらいサービスを開始している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事等を職員だけではなく、入居者さんと一緒にしたり、地域の事等を教えて頂いたりして関係を築いている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんも関われるサービス内容を作成したり面会に来られた際に支援して欲しいことを聞いたり、普段の様子を話して共有した話が出る様に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族さんに外出や外泊した時に、近所の方と話をし関係が途切れないように協力して頂いている。また、面会時に地域の話や昔の話をして頂いたりしている。  (外部評価) 家族の協力を得て馴染みの美容室や自宅の周辺に出かけられるよう支援している。友人の訪問があり、馴染みの関係を継続できるよう支援している。利用者との会話や団らんの中で、昔話を楽しそうにする利用者には職員が寄り添い、ゆとりを持ち話しを聞くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お手伝いしてもらう際に1名ではなく2～3名で手伝ってもらう様にしたり、皆さんでレクリエーションする様にしたり、入居者さん同士の会話の中に職員が入りワンクッションおく様にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 死亡時・長期入院時の利用終了が多いが、施設などを移動しても利用時（在居時）の情報を聞かれたら対応する様にしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 帰宅願望が強い時は希望に十分に添えていないが、家族さんの協力を得たり、本人の希望に少しでも添えるように努めている。	
			(外部評価) 入浴時や居室など、職員が利用者と1対1となる場合には、利用者と同じ向き合いながら思いや意向を聞くようにしている。言葉の少ない利用者には、表情や動作をくみ取り、思いや意向を把握するように努めている。また、日常生活の中で知り得た情報は、申し送りノートに記録し、職員全員で利用者の思いを共有できるようにしている。毎月の職員会議で話し合いを行い、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査・本人からのアセスメントや面会時に情報を得るよう努め、得た情報は職員間で共有し活かす様にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや声かけ・日誌などでの申し送り等で職員が一人ひとりに関わって心身の情報把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のケアカンファレンスで話し合っ、家族からの要望を聞きながら、状況変化に都度対応する様にしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を反映し、介護支援専門員と管理者を中心に原案を作成し、カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、同意を得ている。介護計画は3か月に1回、見直しを行うほか、状態の変化に応じて、その都度見直しをしている。また、定期的にモニタリングを行い、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録・経過観察記録・業務記録に記録して残し、確認したら印を押すなどして共有したり、ケアカンファレンス等で話している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の状態変化に応じてアセスメントし、家族に相談したり、スタッフ間で話し合ったり等、その都度柔軟に対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の婦人会の方に慰問に来て頂いたり、中学校の生徒さんに福祉体験に利用してもらったり、家族さんに外出・外泊した際に近所の方や馴染みの場所に行っていただいたりと協力して頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 主治医の往診が月二回あるが、本人・家族が希望する病院 がある場合、家族の協力をお願いしている。状態に応じて 主治医の病院に受診している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することがで きる。利用者や家族の同意を得て、協力医をかかりつけ医 に変更する利用者もいる。月2回協力医の往診や週1回訪 問看護の訪問があり、利用者の健康管理をしている。急変 時などにも対応ができる協力体制が整っており、利用者 には安心感がある。また、専門医への受診は、職員が同行し ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 週に1回医療連携の看護師の往診が有り、相談・報告して いる。また、職員に看護師が居るので相談したり、DSの看 護師に相談したりしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) サマリ作りをして情報交換をしたり、家族さんから、緊急 時の希望を聞き主治医に伝えている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に看取りについての説明、緊急時の希望などの話を して、状態が悪くなると再度家族さんに緊急時の希望を聞 き主治医・看護師に相談し対応するようにしている。</p> <p>(外部評価) 重度化及び看取りに関する指針を定め、協力医と連携を 図りながら看取りを支援している。入居時に、事業所として 対応できる内容を利用者や家族に説明している。利用者の 状況の変化に応じて、利用者や家族等の意向をその都度確 認をしながら、思いを受け止め納得のいく穏やかな最期を 迎えらるよう支援している。また、看取り等の勉強会を 行うなど、職員の不安の解消や意識向上に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の方による普通救命講習を行い、緊急時に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練や緊急時に近隣のお宅に助けを求められる様に連絡網を作りお願いする等して、災害時に備える様にしている。	
			(外部評価) 消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。訓練には地域住民の参加を呼びかけるなど、災害時に協力を得られるようお願いしている。地域住民には、災害時には事業所を避難場所として提供できることを伝えており、さらなる備蓄等の用意を検討している。また、日頃から職員全員で防災意識を持つよう努め、利用者の安心、安全な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の情報を入居者前で話さない様にしたり、お手伝いをお願いする際や呼ぶ際は名前と呼んだり、何かしてもらった時に感謝の言葉がけをする様にしている。	
			(外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう不快感や羞恥心に気を配り、声かけなどの対応をするよう心がけている。職員は接遇研修に積極的に参加し、職員全員で意識して利用者一人ひとりの人格を尊重するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で選択肢を作り、自己決定する場面を作る様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員主体になる場合もあるが、一人ひとりのペースを大切にし希望を聞き行う様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容を自分自身で鏡を見て出来る様に工夫したり、入浴時に一緒に服を選んだりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の物を取り入れた季節感のあるメニューにしたり、食事作りを一緒にする・味見をして頂いたりしている。	
			(外部評価) 誕生日などの行事の時は、利用者の好みのメニューを聞き提供している。職員は利用者の食事の様子を見守りながら、一緒に和やかに食事をしている。利用者は食事の準備や片付けなど、できることを職員と一緒に手伝っている。畑で採れた野菜が食卓を飾ったり、外でお弁当を食べたりと食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量・水分量チェックをして摂取量の把握をする様にしている。水分の種類を変えるなどして飲んで頂いたりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の状態で、一部介助・全介助等で口腔ケアをする様にしている。義歯の方はポリデントを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 誘導が必要な方の排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導が出来る様に気を付けている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。日中はできる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。トイレが4か所あり、うち2か所は車いすでもゆとりのある広さで、利用者の状態に合わせて使用している。また、排泄状態に合わせて、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者があるなど、個別の対応もしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 水分を多く摂ってもらったり、牛乳を飲んでもらったりしている。又、個々に応じた運動や腹部マッサージ等をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 本人に入るか入らないかを決定してもらっているが個々に応じた入浴は十分には実施出来てない。</p> <p>(外部評価) 週2回を基本として入浴することができ、利用者の希望に応じて対応している。入浴の苦手な利用者には、無理強いないよう声かけやタイミングを工夫し、心地よい入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて、2人体制での介助や同性介助を行い、安全に入浴できるよう配慮している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) お昼寝をされる方は本人の横になりたい場所（居室・炬燵・畳など）を聞いて休んで頂くようにしている。日中レクなどをして頂く事でゆっくり休んで頂くようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用薬の一覧表を貼ったり、薬の説明書をとじて見れる様にしている。症状・処方薬の変化はノートに記入し確認出来る様にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味（作品作り等）をしたり、歌を唄ったり、話を楽しんだり家事の手伝いをして頂く時間を作る様にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の身体レベルに合わせた外出支援を考えたり、家族さんと外出できる様にも協力して頂いている。	
			(外部評価) 季節に応じて、初詣や花見、イルミネーションなどに出かけられるよう支援している。日頃から事業所前の畑に出たり、ゴミ捨てに行ったりするなど、利用者が少しでも外に出やすいような環境づくりをしている。また、利用者の希望に応じて家族の協力を得て美容室や買い物に出かけるなど、日常的に外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理の出来る方は買い物時に支払いをしてもらう様にしている。入居者様の中には少額のお金を家族様と相談し持つておられる方も居る。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人より希望時は電話の取り次ぎをして本人と話してもらう様にしたり、手紙が来た際は本人に渡し、返事をどうするか聞き対応する様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 展示物を貼ったり、花を生けたりして季節感を感じられるようにしたり、トイレ掃除を都度する等して不快な臭いが出ることがないようにしたり日差しの向き・室温等を気を付ける様にしている。</p> <p>(外部評価) 大きな窓からは自然な光が差し込み事業所全体が明るく感じられる。対面キッチンとなっており、職員は利用者の動きを見渡すことができる。壁には、外出時の写真や季節の作品、学生からの礼状が飾られている。畳コーナーにはコタツが置かれ、利用者は自由にくつろぐことができる。利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 畳に上がってコタツに入りテレビを見てもらったり、廊下に椅子を置いて休んでもらったりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の馴染みの物を持って来てもらい、本人の好きな配置で居室作りをする様にしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台が備え付けとなっている。タンスには突っ張り棒が取り付けられ、地震対策をしている。居室には、使い慣れたテレビなどが持ち込まれ、壁には孫の写真を飾るなど、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。以前は位牌を持ち込まれていた利用者もいた。居室への持ち込みの規制はしていないが、シンプルに片付けられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下・トイレ・浴室に手すりが付いており立ち上がりが楽になる様にしていたり、ベランダで洗濯物が干せれる様にしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400314
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム昂星
所在地	愛媛県西予市城川町下相693番地
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 1 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

見晴らしも良く、丁度眼下には桜並木や山茶花が咲き、擬木の歩道も設けてあり恵まれています。畑には、季節に応じた野菜を作っており、新鮮な野菜を使用して調理することが出来、おいしい食事を提供することができます。施設内がきれいに清掃してあります。開設以来、施設内で大きな感染症にかかった人もおらず、健康で暮らせています。母体が医療機関であり、定期的な往診、看護師の訪問により、医療との連携ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな高台に造成された場所に事業所はあり、日当たりがよく眺望にも優れている。交代して間もない管理者は、職員と利用者の双方向のコミュニケーションを図りながら、利用者の日々の暮らしを支援している。職員から管理者には話がやすく、協力姿勢が見られ良好な関係を伺うことができる。医療法人を母体とする事業所は、利用者の健康管理や緊急時の対応など、24時間体制での医療連携が取れており、看取りの取組みも積極的に行われている。職員は利用者の一人ひとりができることを大切に、少しでも長く残存機能が維持できるよう支援している。利用者や家族が安心できるサービスの提供ができるよう、職員の研修にも力を入れている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム昴星

(ユニット名) 第2ユニット

記入者(管理者)

氏名 二宮 さゆり

評価完了日 H25 年 11 月 25 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 施設内の見えるところに、理念を掲示してあり、日々目に入る事により、職員それぞれがケアを実践出来るよう努力している。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を基にして職員全員で話し合い、事業所独自の理念を作成している。事業所内の見えるところに理念を掲げ、職員全員で共有し日々の実践につながるように意識づけを行っている。また、年度末に理念の取組み状況の振り返りを行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的に地域とのつきあいは少ないが、地域の方々がボランティア活動の為に、施設を訪れられる事があります。納涼祭には施設近隣の方の参加もあったり、中学生の福祉体験などで交流があります。秋祭りには、鹿踊りや牛鬼を見せて頂いている。地域で催し物がある時には参加出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所の納涼祭には、地域住民にチラシを配布し参加を呼びかけている。地域の祭りや中学校等の行事に参加して、地域住民と関わりを持つように努めている。また、中学生の福祉体験学習の受け入れをして交流をしている。現在、地元の自治会に入会していないため地域との関わりが少ないが、模索しながら地域とのつながりを持つ姿勢が伺える。</p>	地域とのつながりを持つよう努力しているが、日常的な交流までには至っていない。管理者が交代したことをきっかけとして、積極的に近隣住民に挨拶に向くなど、今後も継続して地域との関係づくりに努め、事業所自体が地域の一員となるような取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 中学生の福祉体験があり、認知症の人の理解や支援の方法を学ぶ機会を作っている。介護教室も行ったこともあったが、今年度はまだ実施出来ていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行っている。地域の方々と話し 合い等をし、いろいろな意見を聴き、サービス向上に活かそ うと努力している。	会議では意見交換は活発に行われているが、参加者の 固定化がみられる。体験学習の受け入れをしている学 校の先生に参加を呼びかけるなど、多方面とのつなが りを持つことで地域との交流が開ける機会にもなり、 多くの参加者を得て、充実した会議となることを期待 したい。
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、区長、民生委員、市担当 者等の参加を得て開催している。会議では事業所の状況を 報告し、介護教室や避難訓練など幅広く議題を挙げ、参加 者と意見交換をしている。様々な立場の参加者に事業所の 様子を知ってもらい、意見等をもらいながらサービスの向 上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 連絡を密に取ってはいないが、介護相談員の方など、訪問 して頂いた時にはケアサービスの取り組み等を伝えるよう にしている。	市担当者が運営推進会議に参加し、事業所の報告を行うほ か、利用者の相談等を行うなど、連携を深めている。運営 面でも報告や相談が気軽にできる良好な関係を築いてい る。また、市が開催する研修等にも積極的に参加してい る。
			(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加し、事業所の報告を行うほ か、利用者の相談等を行うなど、連携を深めている。運営 面でも報告や相談が気軽にできる良好な関係を築いてい る。また、市が開催する研修等にも積極的に参加してい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 時々、廊下をウロウロ歩かれたり、家に「帰ります」と車 椅子を自走されることはありますが、出来る事を行ったり して、他に目を向けることができるようにしている。玄関 には開けたらチャイムが鳴る様にしており、玄関の施錠は していません。	利用者の安全面を考え、家族の同意を得て身体拘束を行っ たことがある。職員全員が身体拘束を理解し、利用者と同 じ目線により気がゆるまないよう意識し、ケアに取 組んでいる。管理者は気になることがある場合は、職員を その都度注意している。また、言葉の拘束にもならないよ う職員全員で意識しながら、適切な対応をするよう心がけ ている。
			(外部評価) 利用者の安全面を考え、家族の同意を得て身体拘束を行っ たことがある。職員全員が身体拘束を理解し、利用者と同 じ目線により気がゆるまないよう意識し、ケアに取 組んでいる。管理者は気になることがある場合は、職員を その都度注意している。また、言葉の拘束にもならないよ う職員全員で意識しながら、適切な対応をするよう心がけ ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 会社内で虐待についての研修会があり、多くの職員に参加してもらい勉強しました。業務が忙しかったりすると、職員も言葉の使い方が、悪くなりやすかったりするので気を付けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 会社内で研修会があり、それにより理解出来たこともありました。現在、必要としている人がいないが、勉強していきたいと思います。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書の中に書かれている、施設内の説明及び、規定などの説明を行い、利用者さんや家族の方の不安や疑問点がないか聴き、理解・納得できるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や面会時、電話などでも家族さんの意見など聴いて、検討し話し合いをしている。利用者さんも介護相談員の方が見えた時には、相談できるようにしている。  (外部評価) 家族の面会時や家族会の開催時に、職員から利用者の状況を伝え、話しやすい関係づくりに努めながら意見や要望を聞くようにしている。遠方の家族には「昴星新聞」を送付し、手紙や電話での情報交換を行っている。利用者や家族から出された意見や要望は、職員全員で話し合い運営に反映できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の業務カンファレンス時に管理者会議での報告を行い、職員から要望、提案、意見などがあれば聴いて、管理者会議等で取り上げてもらっている。  (外部評価) 管理者は交代して間もないため、職員とコミュニケーションを図りながら信頼関係づくりに努めている。管理者の人物がよく、職員も接しやすく意見等が言いやすい雰囲気である。ケアカンファレンスや業務カンファレンスで職員の意見や提案を出し、一人ひとりの運営に対する意識向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資格者には手当があり、時間外や公休日出勤や委員会活動にも手当をつけてもらっているが、給与水準をもう少し上げて欲しい。人員不足の中仕事をしていると、職員の忙しさなどが、利用者さんに伝わってしまったりして悪影響を与えてしまいます。職員の思いや勤務状況を分かってもらえてない部分もあると思います。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社内や外部での研修を受ける機会も多々あり、本人希望により受けることが可能であり、勤務も考慮して作成しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修に参加することにより、他の施設の方とも会話も出来、意見や情報も得る事が出来ている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 体調面、精神面の不安なことを傾聴し、本人が伝えやすいように出来るように努めている。又、安心できるような返答を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査を行い、入居前に利用者さんの状態や、家族の方の不安な気持ちを理解し、職員にも周知している。気軽に何でも言って頂けるような関係づくりに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今までの環境が変わるので、グループホームでの生活に馴染めるように、関わりを持ち、不安なことなどをなくなる様にし、本人の状態、家族の相談に応じて出来る限り支援できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来ることを行ってもらい、日常生活を共にしていく中で、人生の先輩として、知っておられることもたくさんあり、教えて頂き、尊敬の念を持って、接していくようにしています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 遠くに住んでおられる家族の方もおられますが、面会に来て頂いた時には外出や外泊をしたりして、本人さんの状態を知ることができていると思います。面会に来て頂いた時には、日常の生活の様子や変化についてお話したり、家族の方の思いを聴いて共感し、共に支えていけるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が住んでおられた近所の方の名前を出して、お話をしたり、本人さんを知る方々に様子等を聞かれた時には、面会にも来て頂くよう声かけしています。外泊した際には、墓参りに行かれる人もいます。  (外部評価) 家族の協力を得て馴染みの美容室や自宅の周辺に出かけられるよう支援している。友人の訪問があり、馴染みの関係を継続できるよう支援している。利用者との会話や団らんの中で、昔話を楽しそうにする利用者には職員が寄り添い、ゆとりを持ち話しを聞くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リハビリ体操に参加してもらったり、家事を出来る方が、数名おられるので、仲良く一緒に行って頂くように声かけしたり、利用者さんが優しく声かけし、関わっている様子もみられます。聞き取りにくい場合には、職員が間に入り、会話出来るように努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設に移られた場合には、情報の提供を行い、家族さんが困られている時は助言しています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 起床、食事、入浴などその都度問いかけを行い、本人の意思に沿うように心掛けています。コミュニケーションをとる中でいろいろな思いを汲みとれるように、それが困難な場合は表情などをもよく見て、本人の思いを読みとれるようにしています。 (外部評価) 入浴時や居室など、職員が利用者と1対1となる場合には、利用者と同じ向き合いながら思いや意向を聞くようにしている。言葉の少ない利用者には、表情や動作をくみ取り、思いや意向を把握するように努めている。また、日常生活の中で知り得た情報は、申し送りノートに記録し、職員全員で利用者の思いを共有できるようにしている。毎月の職員会議で話し合いを行い、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査により、本人や家族の方にこれまでの生活歴などを聴いて、出来ることは行ってもらう継続出来るように努めています。面会の際、家族の方に聴いたり、日頃の関わりの中で把握するように努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 様子や行動を観察し、日々の記録に目を通したり、出来る事、出来ない事を把握し、本人の有する力を発揮出来るように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回ケアカンファレンスを行い、家族の方にも、事前に要望を聴いたり、本人にも話を聴いて、話し合いを行い、介護計画を作成しています。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を反映し、介護支援専門員と管理者を中心に原案を作成し、カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、同意を得ている。介護計画は3か月に1回、見直しを行うほか、状態の変化に応じて、その都度見直しをしている。また、定期的にモニタリングを行い、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録があり、利用者さんの変わった様子や、気づき、ケアプランに含まれるケアを行えたかどうか記録し、それぞれが目を通し、毎日の申し送りでも情報を共有してケアを行い、状態に変化があれば計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 希望により、散髪なども行っています。家族の方と外出され、買い物や墓参りに行かれる方もいます。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方々のボランティア活動により、歌や踊りなどの慰問があり楽しんでいます。中学生の福祉体験や文化祭にも招かれ子供たちとふれあうことも出来ます。災害時には地元の消防団の方達に協力を得て安全に生活出来るようになっていきます。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 月に2回定期的に往診があります。主治医の指示により、専 門病院に受診しなければいけない時は、家族さんにも希望 を聴き、受診出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することがで きる。利用者や家族の同意を得て、協力医をかかりつけ医 に変更する利用者もいる。月2回協力医の往診や週1回訪 問看護の訪問があり、利用者の健康管理をしている。急変 時などにも対応ができる協力体制が整っており、利用者に は安心感がある。また、専門医への受診は、職員が同行し ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) いつもと違った様子や、気になることがあれば施設内の看 護師に診てもらったり、訪問看護師が週に1回来て頂くの で、相談や診て頂くようになっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 医療機関は、連携をとっている主治医のところであり、日 頃の状態も分かっておられるので、安心出来る。主治医の 指示に従い、家族の方と相談して、体調が安定し出来るだ け早く退院出来るようにしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に説明を行い、家族の方の希望等を聴いている。重 度化してくると職員の不安も多くなってくるので、ターミ ナルケアについての勉強会を行い、支援出来るようにして いきたい。</p> <p>(外部評価) 重度化及び看取りに関する指針を定め、協力医と連携を 図りながら看取りを支援している。入居時に、事業所とし て対応できる内容を利用者や家族に説明している。利用者 の状況の変化に応じて、利用者や家族等の意向をその都度 確認をしながら、思いを受け止め納得のいく穏やかな最 期を迎えられるよう支援している。また、看取り等の勉強 会を行うなど、職員の不安の解消や意識向上に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に訓練は行われていない。訓練を受けていても、実際に事故発生した場合は、訓練通りに出来るかどうか不安である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っており、緊急連絡網の掲示をし地域の消防団や、地域の方にも協力して頂く体制をとっている。  (外部評価) 消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。訓練には地域住民の参加を呼びかけるなど、災害時に協力を得られるようお願いしている。地域住民には、災害時には事業所を避難場所として提供できることを伝えており、さらなる備蓄等の用意を検討している。また、日頃から職員全員で防災意識を持つよう努め、利用者の安心、安全な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) オムツ交換時や着替えなどは、カーテンや戸を閉めたりして周りから見えないようにしている。夜間戸詰めされる人もいますが、プライバシーを守りつつ見守りしなければいけないので声かけしている。言葉かけも本人を傷つけないように気を付けているが、気付いた時は職員同士が話し合いをし、気を付けていきたい。  (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう不快感や羞恥心に気を配り、声かけなどの対応をするよう心がけている。職員は接遇研修に積極的に参加し、職員全員で意識して利用者一人ひとりの人格を尊重するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 希望を聴いて、選択肢をつくり、本人が選ぶ事が出来るように、言葉に出しやすいように働きかけている。表情なども見て理解するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その都度その都度、希望を伺い何をしたいかを聴き、体調による食事時間のずれ、居室での休養など希望に沿って支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や外出時など、自分で選べる人は自分で好きな洋服を選んで着ている。ヘアクリームなどを使用して整髪したりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたい物を聴いて、献立に取り入れたり、一緒に料理の下拵えやつぎ分け、片付けなど出来ることをお願いして行ってもらっています。	
			(外部評価) 誕生日などの行事の時は、利用者の好みのメニューを聞き提供している。職員は利用者の食事の様子を見守りながら、一緒に和やかに食事をしている。利用者は食事の準備や片付けなど、できることを職員と一緒に手伝っている。畑で採れた野菜が食卓を飾ったり、外でお弁当を食べたりと食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の水分量の記録を行い、1日の水分量の把握し、十分に確保出来るように、飲み物も変えて提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行えるように、出来る部分は自分でしてもらい、きれいに磨けないところは介助にて行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを活かして、自分で行かない人は声かけ誘導している。  (外部評価) 排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。日中はできる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。トイレが4か所あり、うち2か所は車いすでもゆとりのある広さで、利用者の状態に合わせて使用している。また、排泄状態に合わせて、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者があるなど、個別の対応もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動や水分、食物繊維の多い物をたくさん摂って頂けるように献立の中に取り入れたりしているものの、水分摂取が難しかったり、運動をされなかったりして、便秘薬を服用しなければいけない人もいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 朝のバイタルを考慮し、時間帯はほぼ決まってしまうが、本人に希望を確認して、入浴出来るようにしている。  (外部評価) 週2回を基本として入浴することができ、利用者の希望に応じて対応している。入浴の苦手な利用者には、無理強いないよう声かけやタイミングを工夫し、心地よい入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて、2人体制での介助や同性介助を行い、安全に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 温度の変化、湿度に気を付けて安眠出来る状態に気を付けている。夜間眠れない方もいますが、日中に休めることが出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとり個別に朝、昼、夜と小袋に分包し、間違えることのないように確認して服用するようにしている。利用者の方全員の表を作り、掲示し、薬の用法や用量目的が分かるようにしてあり、個人でも調べて薬の理解をするようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 歌の好きな方が多く、歌謡曲を聴いたり、一緒に唄ったりして楽しまれている。又、本を読まれたり、散歩に行ったり、編み物をされたり、好きなことを楽しまれている。献立を決める前には、何か食べたい物があるかを聴いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、声かけして、散歩に出掛けている。行事計画の中にもどこか行きたい所がないか聴いて希望に沿うようにしている。家族の方と、買い物に出掛けたり、外泊した際には墓参りにいったりしている方もいる。  (外部評価) 季節に応じて、初詣や花見、イルミネーションなどに出かけられるよう支援している。日頃から事業所前の畑に出たり、ゴミ捨てに行ったりするなど、利用者が少しでも外に出やすいような環境づくりをしている。また、利用者の希望に応じて家族の協力を得て美容室や買い物に出かけるなど、日常的に外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人でいくらか持っておられる方もいます。外出して買い物の際には、自分で支払できる人は、支払ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で電話をかける方は少ないが、電話がかかってきた時には取り次いだり、用があり家族の方にかけた時には話してもらっている。届いた手紙を読んだりすることはあっても、こちらから書いたりすることはしていない。字を書ける方もいるので、こういう支援も出来るようにしていきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節感を感じられる壁絵や花を飾ったりしている。テレビのボリュームにも気を付け、日差しが強い時にはカーテンを閉めたり、適度に換気を行い、居心地よく過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 大きな窓からは自然な光が差し込み事業所全体が明るく感じられる。対面キッチンとなっており、職員は利用者の動きを見渡すことができる。壁には、外出時の写真や季節の作品、学生からの礼状が飾られている。畳コーナーにはコタツが置かれ、利用者は自由にくつろぐことができる。利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアには全員が座る事が出来る大きなテーブルとこたつが置かれた居間があり、利用者さん同士が話したり、歌を唄ったり、新聞を読まれたりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には自宅で使い慣れた物（テレビなど）を持ち込んだり、家族さんの写真を飾ったりしている。タンスとクローゼット、ベッドは備え付けられたものがありますが、自由に配置出来るようになっている。特別工夫はしていない。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台が備え付けとなっている。タンスには突っ張り棒が取り付けられ、地震対策をしている。居室には、使い慣れたテレビなどが持ち込まれ、壁には孫の写真を飾るなど、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。以前は位牌を持ち込まれていた利用者もいた。居室への持ち込みの規制はしていないが、シンプルに片付けられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 廊下には手すりが設置されて安全に移動出来、歩行運動も自分の力で実施出来る。トイレの場所が分かるように張り紙を貼ったりしている。</p>	